

平成15年度 公共事業再評価調書（梵字川広域基幹河川改修事業）

（事業着手後10年経過、着手後5年間未着手、**再評価後5年経過**、社会情勢の急激な変化） — いずれかに○

評価確定日	平成15年 月 日
所管部課名	建設交通部 河川課

地区名	事業の概要	1 必要性の観点			2 事業進捗の見込みの観点				
		事業の進捗状況	事業を巡る社会経済情勢等の変化	事業の投資効果					
[河川名] 一級河川 ぼんじがわ 梵字川 [所在地] 河辺町和田	[事業の目的] 本事業は、当該区間の河道改修を推進し、洪水氾濫による災害を未然に防止し、民生の安定を図るため河川改修事業を推進するものである。 [総合計画上の位置付け] あきた21総合計画の中で、快適で安全な生活を実現するため、災害に強い県土づくりを目指し、河川改修等の推進が位置づけられている。 [事業の内容] ○広域基幹河川改修事業 ○延長 1,550m ○築堤 3,100m ○護岸 89,900㎡ ○道路橋 5 ○事業費 16億円 内用地費 3.7億円 ○事業期間 S48~H20 ○計画高水流量 6.7m³/s	[事業の経緯] S48 事業採択 S48 用地着手 S49 工事着手 H20 完成予定 [進捗状況] ○全体事業費 16.0億円（用地費3.7億円） ○H14末投資済事業費 12.43億円（78.2%） 内用地費 3.44億円（92.0%） ○改修済延長 1,250m（80.6%） [長期継続の理由] 国道13号河辺拡幅との事業の調整に期間を要している。平成10年度より休止していたが、河辺拡幅に伴う国道橋（梵字川橋）架け替えが平成15年度より着手することとなったため、事業再開するものである。	[社会経済情勢の変化] ○災害発生時の影響（想定氾濫区域内） 浸水戸数 11戸 農地浸水面積 20ha ○過去の災害実績 最大浸水家屋 7戸（S62.8） 最大農地浸水面積 20ha（S62.8） ○災害発生時の危険度 改修目標流量に対する現況流下能力の割合 約70% [地域の状況] ①地域開発の状況：地域開発は特になし ②地域の協力体制：地元自治体は協力的である。 ③地域の事業に対する社会的評価：河川改修と国道拡幅との事業連携により早期の改修完成が望まれている。 [環境対策] H13、H14環境調査を実施しており多くの魚種が確認されている。工事に際しては生態系に配慮したブロック等の使用も検討している。	[整備効果] 発現している。国道13号橋梁下流区間の浸水被害は軽減された。 [費用の変化] ほとんどなし。 [効果の変化] 宅地開発や市街化の進行により、農地が減少し、宅地が増加していることによる効果の変化が見込まれる。 [費用対効果] <table border="1"> <tr> <td>再評価時</td> <td>2.61</td> </tr> <tr> <td>採択基準</td> <td>1.00</td> </tr> </table>	再評価時	2.61	採択基準	1.00	[事業進捗の見込み] 早期に浸水被害の解消を図る必要があることから、H20年度事業完成を予定している。 3 コスト縮減や代替案立案等の可能性の観点 [コスト縮減の可能性] 残区間の護岸について、従来の護岸より安価な環境保全型ブロックの使用等によりコスト縮減を図りながら、事業の進捗を図る。 [代替案立案の可能性] 代替案立案の必要性は生じていない。
再評価時	2.61								
採択基準	1.00								
再評価の結果		対応方針（案）及びその理由		公共事業評価専門委員会の意見					
継続・中止 どちらかに○を付ける		[対応方針（案）] 計画どおり、平成20年の完成を図る。 [理由] 国道13号の4車線拡幅に合わせ事業を再開し、同区間の上下流部の改修効果が十分に発揮されるよう早急に改修を実施するものである。費用対効果は1.0を越え、本河川改修事業が経済的に妥当であると判断される。							